

悠紀齋田写真集1

この悠紀齋田写真は悠紀の里サポート会、つるや呉服店のご厚意によるものです。

大正4年の大嘗祭悠紀齋田は次のような日程で行われた。

大正3年3月7日	悠紀齋田示達式（碧海郡六ッ美村下中島字上丸ノ内の4反歩）
大正3年4月11日	「昭憲皇太后」が崩御され大嘗祭は1年延期となる。
大正4年4月22日	大嘗祭悠紀齋田祓式（悠紀齋田）
大正4年4月23日	播種式（悠紀齋田）
大正4年6月5日	悠紀齋田御田植祭（悠紀齋田）
大正4年8月15日	抜穂式齋場地鎮祭（悠紀齋田齋場予定地）
大正4年9月19日	抜穂前一日大祓の儀（矢作川大聖寺磧）
大正4年9月20日	悠紀齋田抜穂式（悠紀齋田齋場）
大正4年10月15日	供納米点検式（八幡社）
大正4年10月16日	齋田米供納式（京都御所）
大正4年11月14日	大嘗祭（大嘗宮：仙洞御所）

大嘗祭悠紀齋田の大正5年以降の行事（悠紀齋田奉耕者や有志によりお田植え実施）

大正14年6月	悠紀齋田10周年記念お田植祭（記念植樹：オガタマノキ）
昭和4年11月25日	高松宮殿下御視察（悠紀齋田、農業補修学校）
戦時中	六ッ美南部小学校の先生や児童により実習田として継続
戦後	悠紀齋田関係者の有志の方で、お田植まつりを継続
昭和40年6月6日	悠紀齋田50周年記念お田植祭
昭和41年3月10日	大嘗祭悠紀齋田が岡崎市無形民俗文化財に指定
昭和47年4月	六ッ美地区総代会が中心となり保存会を設立し、体質強化を図る
平成7年6月4日	悠紀齋田80周年記念お田植まつりを実施（記念植樹：オガタマノキ） 主基齋田保存会と交流調印式執り行う（以降相互の交流開始）
平成17年5月28日	悠紀齋田90周年として愛・地球博愛知万博でお田植えまつりを披露
平成20年2月17日	愛知県民俗芸能大会でお田植えまつりを披露
平成18年～26年	皇族のご来駕要請の宮内庁訪問 第1回～第6回（岡崎市長・愛知県議会議員・悠紀齋田保存会員）
平成24年4月26日	六ッ美悠紀齋田100周年記念事業実行委員会発足
平成26年6月1日	六ッ美悠紀齋田99周年お田植まつり
平成27年6月7日	六ッ美悠紀齋田100周年お田植まつり

■本田耕作 1915年



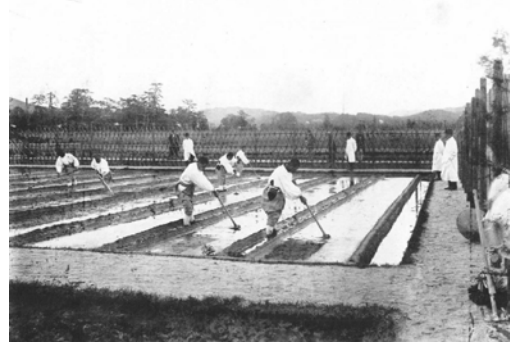
本田耕作

■播種式 19150423



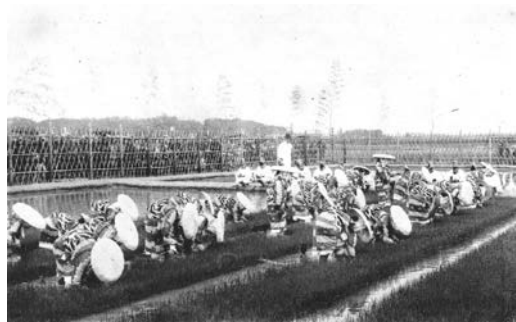
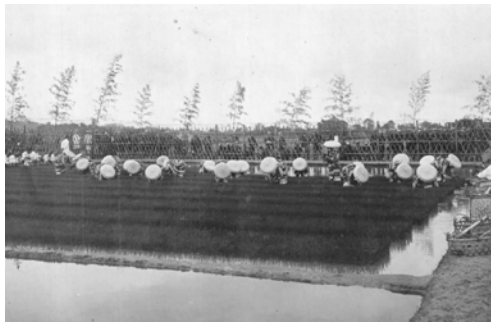
19150423 播種式

■苗代作成 1915年



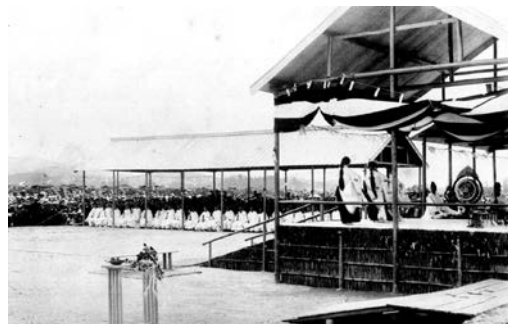
苗代

■苗取り 1915年

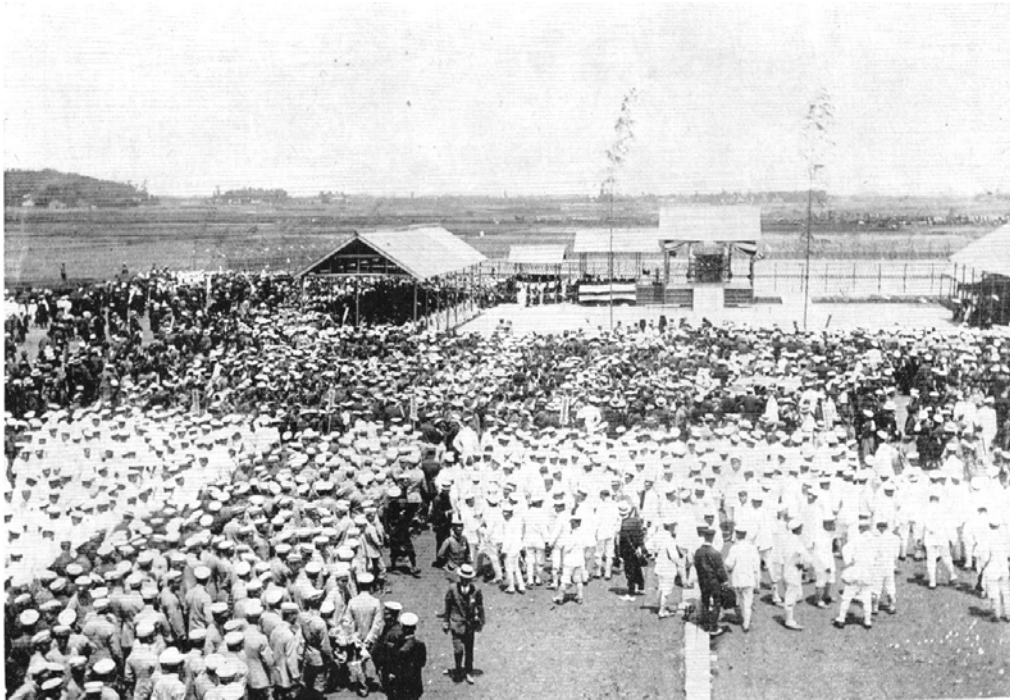


19150605 苗取

■御田植え式 19150605

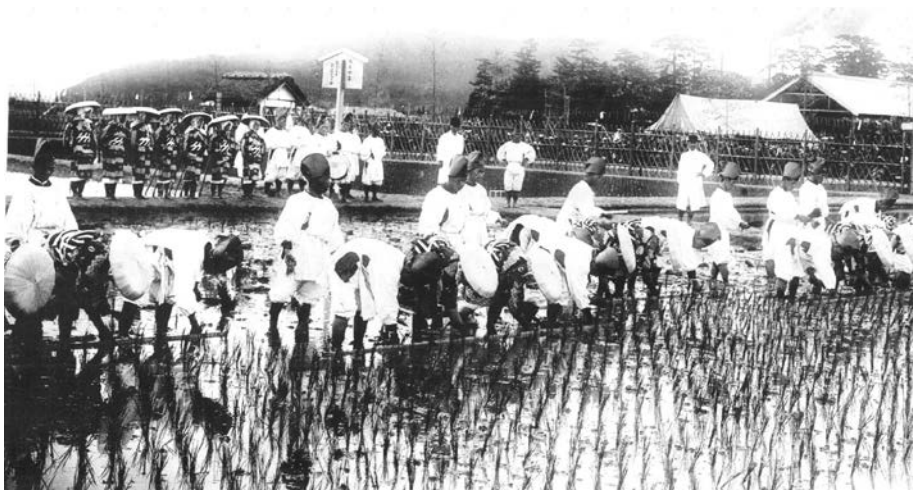


19150605 御田植え式



19150605 御田植え式

■御田植え 19150605



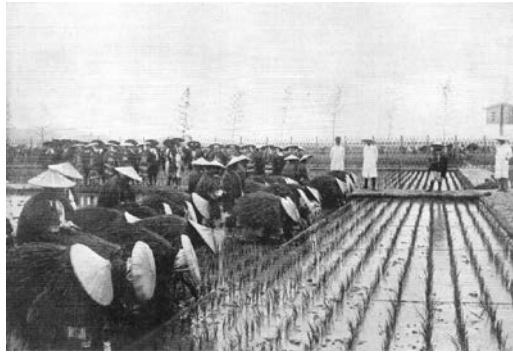
19150605 御田植え

■御田植え踊り 19150605

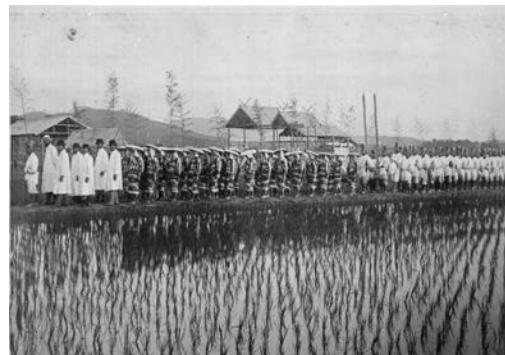
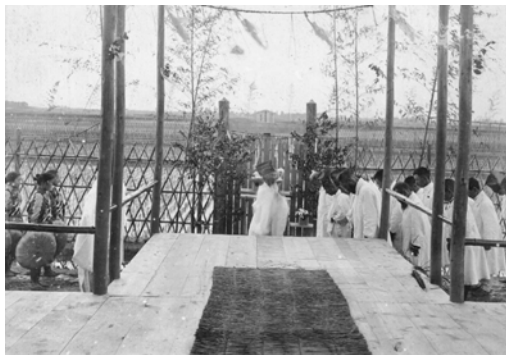


19150605 御田植え踊り

■御田植え 19150606

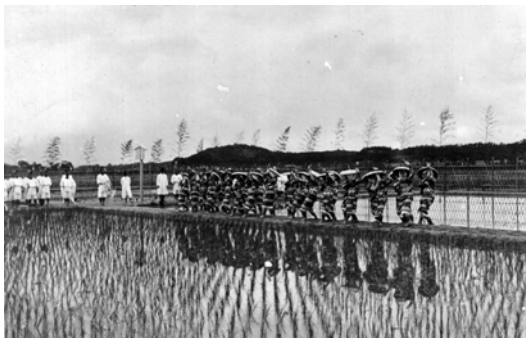


19150606 御田植え



19150606 御田植え

■御田植え踊り 19150606



19150606 御田植え踊り

■草取り 1915年



草取り

■拔穂式 19150920



19150920 拔穂式

■脱穀 1915年



脱穀

■供納式 19151016



19151016 供納式

■大嘗祭 19151114



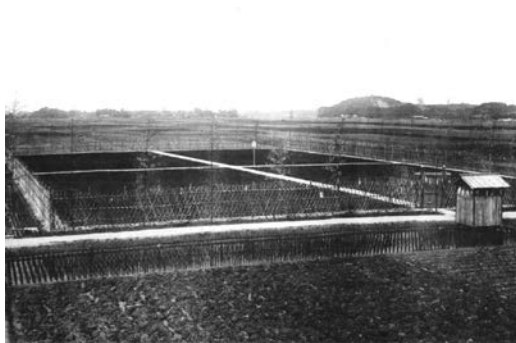
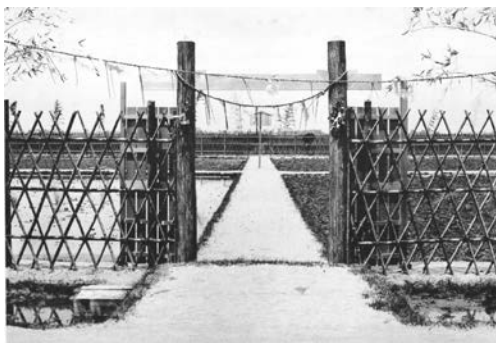
19151114 大嘗祭

■奉耕者 1915年



奉耕者

■斎田風景 1915年



斎田風景



斎田風景

■高橋用水



高橋用水

■高松宮殿下視察 19291125



19291125 高松宮視察

■悠紀斎田80周年 19950604



19950604 80周年

■悠紀斎田2011年



2011年

■悠紀斎田2012年



2012年

■悠紀斎田2014年



2014年

■悠紀斎田100周年 20150607



20150607 100周年





20150607 100周年



【繪服】

天皇が即位する時、その儀式となる大嘗祭で着用する麻の服のこと。衣には鹿服(あらたえ)と繪服(にぎたえ)の二つがあり、繪服は絹布、鹿服は麻布。麻布を作るため、畑で大麻を栽培し、それを織って鹿服を作り、皇居まで運ぶという一連の作業を、古来より三木家が担ってきたのである。

【播種】

播種(はしゅ)とは、植物の種子(種<たね>)を播く(蒔く、撒く、まく)こと、つまり種まきである。

【千歯扱き】

千歯扱き(せんばこき)もしくは千歯(せんば)は、元禄期に和泉国の大工村(現在の大阪府高石市高師浜の一部)で考案された日本の古式の脱穀用農具。木の台の上から鉄製、もしくは竹製の櫛状の歯が水平に突き出した形をしている。稲扱きと麦扱きに分かれる。

【唐箕】

唐箕(とうみ)とは、風力を起して穀物を選別するための農具。収穫した穀物を脱穀した後、籾殻や藁屑を風によって選別するために用いられる。

【筵】

筵(むしろ)とは、藁(わら)やイグサなどの草で編んだ簡素な敷物。菰(こも)とも呼ばれる。代表的な製品に「ござ(莫蔭)」がある。